

令和3年度決算に基づく 佐倉市の財務書類

財政部 財政課

令和5年7月

◇ 目 次 ◇

1. 財務書類作成までの経緯	… 1
2. 佐倉市の財務書類について	… 2
①財務四表とは	… 2
②統一的基準による財務書類	… 3
③作成基準日	… 4
④財務書類の対象となる会計	… 4
3. 一般会計等財務書類	… 6
一般会計等貸借対照表	… 6
一般会計等行政コスト計算書	… 8
一般会計等純資産変動計算書	… 10
一般会計等資金収支計算書	… 12
4. 全体財務書類	… 14
全体貸借対照表	… 14
全体行政コスト計算書	… 15
全体純資産変動計算書	… 16
全体資金収支計算書	… 17
5. 連結財務書類	… 18
全体貸借対照表	… 18
全体行政コスト計算書	… 19
全体純資産変動計算書	… 20
全体資金収支計算書	… 21
6. 財務書類における注記	… 22
7. 財務書類からわかること	… 24
住民一人当たり資産額	… 24
歳入額対資産比率	… 25
有形固定資産減価償却率（資産老朽化比率）	… 26
純資産比率	… 27
将来世代負担比率	… 28
住民一人当たり負債額	… 29
基礎的財政収支	… 30
住民一人当たり行政コスト	… 31
受益者負担比率	… 32

1. 財務書類作成までの経緯

地方公共団体の予算・決算に係る会計制度は、地方自治法等の法令によりその調製方法や処理方法が規定されています。これらは「現金主義・単式簿記」による会計で、1年間にどのような収入があり、その収入を何にいくら使ったかを明らかにすることを目的としています。

「現金主義・単式簿記」による会計は、単年度の収支が明らかになる反面、これまでにどれだけ資産が形成されたのか、どのくらいの負債を抱えているのかといった情報が把握できないため、財政情報を総合的かつ長期的に把握するには情報が不足しているといわれています。

このため、民間企業で採用されている、「発生主義・複式簿記」の考え方を取り入れ、見えにくいコスト（費用）やストック（資産）を正確に把握し、現金主義会計を補完する財務書類の作成が求められています。

佐倉市では、平成18年5月に総務省から発表された「新地方公会計制度報告書」に基づき、平成20年度決算から既存の決算統計を活用した「総務省方式改定モデル」で財務諸表を作成してきました。しかし、資産が正確に計上されないという問題点があることから、平成24年度決算より民間企業会計の「発生主義・複式簿記」を取り入れ、資産を公正価値で評価するなど、より正確な財務状況を把握できる「基準モデル」に会計基準を変更して作成してきました。

平成27年1月23日付総務大臣通知「統一的な基準による地方公会計の整備促進について」において、原則として平成27年度から平成29年度までの3年間で全ての地方公共団体において統一的な基準による財務書類等を作成するよう強い要請がありました。この要請の背景には、「総務省方式改定モデル」では固定資産台帳の整備が必ずしも前提とされていないことや、「基準モデル」や「東京都方式モデル」など発生主義・複式簿記を取り入れた会計基準が多数混在しているといった問題点がありました。そのため、統一的な基準を設定することにより、発生主義・複式簿記の導入、固定資産台帳の整備による公共施設等のマネジメントへの活用、地方公共団体間での比較可能性の確保を促進しようとするものです。

上記の通知を受けて、佐倉市においても、既存の固定資産台帳や勘定科目の見直しを実施し、平成28年度決算より「統一的な基準による財務書類」を作成しています。

2. 佐倉市の財務書類について

① 財務四表とは

貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書の4つの財務書類のことをいいます。

◎貸借対照表（バランスシート：BS）

基準日（年度末の3月31日）時点における財政状態を明らかにするもので、資産・負債・純資産の3つの要素から構成されています。

左側（借方）には住民の財産や権利など将来にわたる様々な行政サービスを提供する「資産」が記載されます。右側（貸方）には「資産」のために必要な借入金など将来の世代が返済する「負債」と、国県の補助金や市民税によって今までの世代が負担して返済不要な「純資産」が記載されます。

◎行政コスト計算書（PL）

行政活動の中でも、人的サービスや給付サービスなど、資産の形成につながらない行政サービスに費やされた会計期間中のコスト（費用）と収益の取引高を明らかにするものです。減価償却費や引当金のような現金主義では捕捉できなかったコストも計上します。

◎純資産変動計算書（NW）

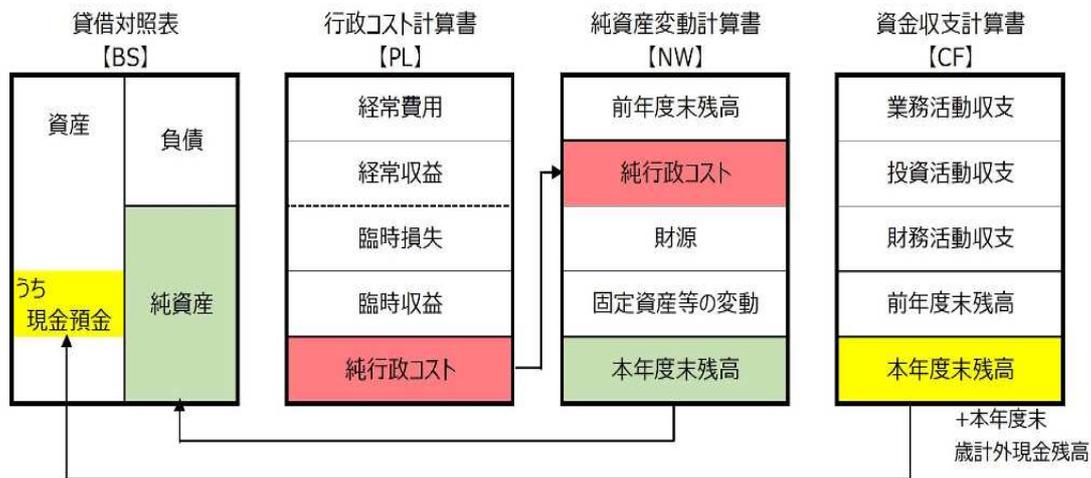
会計期間中の貸借対照表の純資産の変動を明らかにするものです。前年度末の純資産残高、期中の増加及び減少額、本年度末の残高を表します。

◎資金収支計算書（CF）

会計期間中の現金預金の収支の状態、つまり現金預金の利用状況及び資金の獲得状況を明らかにするものです。前年度末の資金残高、期中の増加及び減少額、本年度末の残高を表します。

② 統一的な基準による財務書類

◎財務四表の相互関係



4つの財務書類の関連性には、以下の3つのポイントがあります。

- i. 貸借対照表【BS】の現金預金は、資金収支計算書【CF】の本年度末残高と本年度末歳計外現金残高を加えた金額に対応します。
- ii. 行政コスト計算書【PL】の純行政コストは、純資産変動計算書【NW】の純行政コストに対応します。
- iii. 貸借対照表【BS】の純資産は、純資産変動計算書【NW】の本年度末残高に対応します。

◎統一的基準とは

平成26年4月30日に公表された「今後の新地方公会計の推進に関する研究会報告書」には、すべての地方公共団体において適用できる標準的な基準を示し、資産評価の基準や様式など財務書類の作成の基本となる部分について、統一的な取扱いとして整理する必要があるとしています。

平成27年1月23日に「統一的基準による地方公会計マニュアル」が発表され、現金主義会計の補完として複式簿記・発生主義会計を採用し、歳入歳出データから複式仕訳を作成することで、現金取引のみならず、資産等のストック情報や減価償却費等のコスト情報を把握し、公共施設等のマネジメントや財政運営等への活用のために全国同じ基準で財務書類を作成することになっています。

③ 作成基準日

令和4年3月31日

統一的な基準による財務書類の作成基準日は会計年度末（3月31日）となります。ただし、地方自治法第235条の5に定められた出納整理期間（令和4年4月1日から5月31日まで）の入出金における取引を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。

④ 財務書類の対象となる会計

i. 一般会計等財務書類

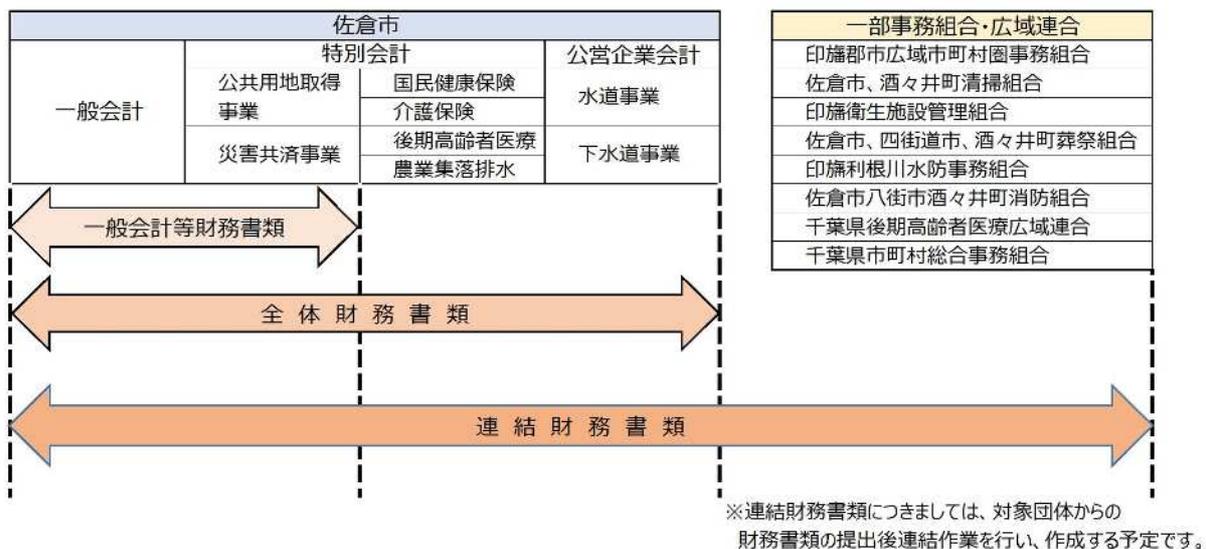
- 一般会計
- 地方公営事業以外の特別会計
(公共用地取得事業特別会計と災害共済事業特別会計)

ii. 全体財務書類

- 一般会計等財務書類
- 地方公営事業の特別会計 (国民健康保険特別会計、介護保険特別会計、後期高齢者医療特別会計、農業集落排水事業特別会計)
- 公営企業会計 (水道事業会計、下水道事業会計を全部連結)

iii. 連結財務書類

- 全体財務書類
- 一部事務組合、広域連合 (※負担金額等の割合による比例連結)



3. 一般会計等財務書類

一般会計等貸借対照表

(令和 4年 3月31日現在)

(単位：百万円)

科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	298,502	固定負債	34,019
有形固定資産	281,904	地方債	28,622
事業用資産	92,403	長期未払金	0
土地	52,581	退職手当引当金	5,398
立木竹	0	損失補償等引当金	0
建物	80,767	その他	0
建物減価償却累計額	△44,215	流動負債	3,641
工作物	11,722	1年内償還予定地方債	2,993
工作物減価償却累計額	△9,878	未払金	0
船舶	17	未払費用	0
船舶減価償却累計額	△17	前受金	0
浮標等	0	前受収益	0
浮標等減価償却累計額	0	賞与等引当金	648
航空機	0	預り金	0
航空機減価償却累計額	0	その他	0
その他	0	負債合計	37,660
その他減価償却累計額	0		
建設仮勘定	1,424	【純資産の部】	
インフラ資産	189,299	固定資産等形成分	307,956
土地	124,137	余剰分（不足分）	△38,371
建物	2,740		
建物減価償却累計額	△1,779		
工作物	137,050		
工作物減価償却累計額	△73,146		
その他	0		
その他減価償却累計額	0		
建設仮勘定	298		
物品	2,027		
物品減価償却累計額	△1,824		
無形固定資産	0		
ソフトウェア	0		
その他	0		
投資その他の資産	16,597		
投資及び出資金	5,406		
有価証券	58		
出資金	710		
その他	4,639		
投資損失引当金	0		
長期延滞債権	988		
長期貸付金	225		
基金	10,034		
減債基金	1,020		
その他	9,014		
その他	0		
徴収不能引当金	△56		
流動資産	8,744		
現金預金	3,311		
未収金	277		
短期貸付金	30		
基金	5,126		
財政調整基金	5,126		
減債基金	0		
棚卸資産	0		
その他	0		
徴収不能引当金	0		
資産合計	307,246	純資産合計	269,586
		負債及び純資産合計	307,246

※端数処理の関係上、合計額と一致しない部分があります。

◆貸借対照表（BS）の勘定科目について◆

①**資産の部**：自治体が所有する財産や権利

(1)固定資産（土地や建物などで1年を超えて利用する資産）

(ア)有形固定資産：固定資産のうち目に見える資産

- ・事業用資産 …庁舎や学校など売却可能とされる資産
- ・インフラ資産…道路、公園、防災、上下水道施設に限定
- ・物品 …車両、物品、美術品等

(イ)投資その他の資産

- ・有価証券 …株券、公債証券などの債権等
- ・出資金 …公有財産として管理されている出資等
- ・長期延滞債権…滞納繰越調定収入未済分
- ・長期貸付金 …翌々年度以降に償還期限が到来するもの
- ・減債基金 …地方債の償還のために積立している基金
- ・その他の基金…減債基金及び財政調整基金以外の基金
- ・徴収不能引当金…長期延滞債権を徴収不能実積率などで算定した引当金

(2)流動資産（1年以内に現金化、費用化できる資産）

- ・現金預金 …年度末の現金及び預金の残高でCFの残高と一致
- ・未収金 …現年度に調定したが現年度に収入未済のもの
- ・短期貸付金 …貸付金のうち、翌年度に償還期限が到来するもの
- ・財政調整基金…財政の健全運営のために積立している基金
- ・徴収不能引当金…未収金のうち回収見込みがないと見積もった金額

②**負債の部**：支払の義務のあるもの

(1)固定負債（支払期限が1年を超えて到来する負債）

- ・地方債 …地方債のうち、償還予定が1年超のもの
- ・退職手当引当金…年度末に全職員が退職した場合に支払うべき金額

(2)流動負債（支払期限が1年以内に到来する負債）

- ・1年内償還予定地方債…地方債のうち、翌年度償還を予定しているもの
- ・未払金 …支払義務が確定している金額
- ・前受金 …代金の納入は受けているが、未履行である金額
- ・賞与等引当金…翌年度支払予定の賞与等のうち、当年度負担分の金額

③**純資産の部**：現在までの世代が負担した金額で、正味の資産

- ・固定資産等形成分…資産形成のために充当した金額の残高
- ・余剰分（不足分）…自治体の費消可能な資源の蓄積

一般会計等行政コスト計算書

自 令和 3年 4月 1日

至 令和 4年 3月31日

(単位：百万円)

科目	金額
経常費用	53,836
業務費用	26,932
人件費	9,614
職員給与費	7,632
賞与等引当金繰入額	648
退職手当引当金繰入額	315
その他	1,019
物件費等	16,400
物件費	11,437
維持補修費	399
減価償却費	4,564
その他	0
その他の業務費用	919
支払利息	107
徴収不能引当金繰入額	72
その他	739
移転費用	26,904
補助金等	12,371
社会保障給付	10,842
他会計への繰出金	3,594
その他	96
経常収益	1,107
使用料及び手数料	480
その他	627
純経常行政コスト	52,729
臨時損失	44
災害復旧事業費	0
資産除売却損	44
投資損失引当金繰入額	0
損失補償等引当金繰入額	0
その他	0
臨時利益	19
資産売却益	19
その他	0
純行政コスト	52,754

※端数処理の関係上、合計額と一致しない部分があります。

◆行政コスト計算書（PL）の勘定科目について◆

①純経常行政コスト

(1)経常費用（毎会計年度、経常的に発生する費用）

(ア)業務費用

(A)人件費

- ・職員給与費 …職員等に支払われる費用
- ・賞与等引当金繰入額 …賞与等引当金等の当該年度発生額

(B)物件費等

- ・物件費 …職員旅費、委託料、消耗品など
- ・維持補修費 …資産の機能維持のために必要な修繕費等
- ・減価償却費 …使用や年月の経過に伴う資産の価値減少額

(C)その他の業務費用

- ・支払利息 …地方債の償還のために支払った利子など
- ・徴収不能引当金繰入額…徴収不能引当金の当該年度発生額

(イ)移転費用

- ・補助金等 …市が支出した補助金等の額
- ・社会保障給付…扶助費等、社会保障給付のための費用

(2)経常収益（毎会計年度、経常的に発生する収益）

- ・使用料及び手数料 …使用料・手数料の形態で徴収するもの

②純行政コスト：純経常行政コストに臨時損失と臨時利益を加えたもの

(1)臨時費用

- ・資産売却損 …資産を売却して損失が発生した場合の金額

(2)臨時利益

- ・資産売却益 …資産を売却して収益が発生した場合の金額

一般会計等純資産変動計算書

自 令和 3年 4月 1日
至 令和 4年 3月31日

(単位：百万円)

科目	合計	固定資産 等形成分	
		固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)
前年度末純資産残高	269,797	307,237	△37,440
純行政コスト(△)	△52,754		△52,754
財源	51,133		51,133
税収等	33,017		33,017
国県等補助金	18,116		18,116
本年度差額	△1,622		△1,622
固定資産等の変動(内部変動)		△692	692
有形固定資産等の増加		1,789	△1,789
有形固定資産等の減少		△4,823	4,823
貸付金・基金等の増加		2,372	△2,372
貸付金・基金等の減少		△30	30
資産評価差額	2	2	
無償所管換等	1,409	1,409	
その他	0	0	0
本年度純資産変動額	△211	719	△930
本年度末純資産残高	269,586	307,956	△38,371

※端数処理の関係上、合計額と一致しない部分があります。

◆純資産変動計算書（NW）の勘定科目について◆

①前年度末純資産残高（前年度末に計上された純資産残高）

②期中のうごき

純行政コスト（△）…行政コスト計算書で積算された費用

財源

- ・ 税金等 … 地方税、地方交付税及び地方譲与税等
- ・ 国県等補助金 … 国庫支出金及び都道府県支出金等

本年度差額 … 前年度末純資産残高－純行政コスト＋財源

固定資産等の変動（内部変動）

- ・ 有形固定資産等の増加…保有資産の増加額、資産形成に支出した金額
- ・ 有形固定資産等の減少…固定資産の減価償却費相当額、除売却による減少額等
- ・ 貸付金・基金等の増加…貸付金・基金等の形成による資産の増加額
- ・ 貸付金・基金等の減少…貸付金の償還、基金の取崩し等による減少額

資産評価差額 … 有価証券等の評価差額

無償所管換等 … 無償で譲渡又は取得した固定資産の評価額

本年度純資産変動額…本年度差額＋資産評価差額＋無償所管換等＋その他

③本年度末純資産残高（前年度末純資産残高に本年度純資産残高を増減した額）

一般会計等資金収支計算書

自 令和 3年 4月 1日
至 令和 4年 3月31日

(単位：百万円)

科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	48,790
業務費用支出	21,887
人件費支出	9,336
物件費等支出	11,729
支払利息支出	107
その他の支出	715
移転費用支出	26,904
補助金等支出	12,371
社会保障給付支出	10,842
他会計への繰出支出	3,594
その他の支出	96
業務収入	51,222
税金等収入	33,082
国県等補助金収入	17,053
使用料及び手数料収入	480
その他の収入	607
臨時支出	0
災害復旧事業費支出	0
その他の支出	0
臨時収入	0
業務活動収支	2,432
【投資活動収支】	
投資活動支出	4,239
公共施設等整備費支出	1,789
基金積立金支出	2,406
投資及び出資金支出	43
貸付金支出	0
その他の支出	0
投資活動収入	1,801
国県等補助金収入	1,063
基金取崩収入	602
貸付金元金回収収入	30
資産売却収入	106
その他の収入	0
投資活動収支	△2,437
【財務活動収支】	
財務活動支出	2,749
地方債償還支出	2,749
その他の支出	0
財務活動収入	3,309
地方債発行収入	3,309
その他の収入	0
財務活動収支	560
本年度資金収支額	554
前年度末資金残高	2,757
本年度末資金残高	3,311
前年度末歳計外現金残高	0
本年度歳計外現金増減額	0
本年度末歳計外現金残高	0
本年度末現金預金残高	3,311

※端数処理の関係上、合計額と一致しない部分があります。

◆資金収支計算書（CF）の勘定科目について◆

①業務活動収支

(1)業務支出（自治体の運営上、毎年度経常的に支出されるもの）

(ア)業務費用支出

- ・人件費支出 …議員報酬、職員給料などの支出
- ・物件費等支出…消耗品費、維持補修費、委託料などの支出
- ・支払利息支出…地方債の償還に係る支払利子の支出

(イ)移転費用支出

- ・補助金等支出 …各種団体への補助金等に係る支出
- ・社会保障給付支出…生活保護などの社会保障に係る支出

(2)業務収入（毎年度経常的に収入するもの）

(ア)税金等収入 …市民税や固定資産税などの収入

(イ)国県等補助金収入 …国県補助金のうち、業務支出に財源充当した収入

(ウ)使用料及び手数料収入…使用料及び手数料の収入

②投資活動収支

(1)投資活動支出

(ア)公共施設等整備費支出…有形固定資産等形成に係る支出

(イ)基金積立金支出 …基金積立に係る支出

(ウ)投資及び出資金支出 …投資及び出資金に係る支出

(2)投資活動収入

(ア)国県等補助金収入 …国県補助金のうち、投資活動支出に財源充当した収入

(イ)基金取崩収入 …基金取崩による収入

(ウ)貸付金元金回収収入…貸付金に係る元金回収収入

(工)資産売却収入 …資産売却による収入

③財務活動収支

(1)財務活動支出

- ・地方債償還支出…地方債の元金償還に係る支出

(2)財務活動収入

- ・地方債発行収入…地方債発行による収入

◎本年度資金収支額…「業務活動収支」＋「投資活動収支」＋「財務活動収支」

◎本年度末資金残高…「前年度末資金残高」＋「本年度資金収支額」

◎本年度末歳計外現金残高…「前年度末歳計外現金残高」＋「本年度歳計外現金増減額」

◎本年度末現金預金残高 …「本年度末資金残高」＋「本年度末歳計外現金残高」

4. 全体財務書類

全体貸借対照表

(令和 4年 3月31日現在)

(単位：百万円)

科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	362,256	固定負債	64,095
有形固定資産	340,728	地方債等	32,614
事業用資産	92,403	長期未払金	0
土地	52,581	退職手当引当金	5,398
立木竹	0	損失補償等引当金	0
建物	80,767	その他	26,083
建物減価償却累計額	△44,215	流動負債	4,443
工作物	11,722	1年内償還予定地方債等	3,344
工作物減価償却累計額	△9,878	未払金	391
船舶	17	未払費用	0
船舶減価償却累計額	△17	前受金	0
浮標等	0	前受収益	0
浮標等減価償却累計額	0	賞与等引当金	695
航空機	0	預り金	8
航空機減価償却累計額	0	その他	5
その他	0		
その他減価償却累計額	0	負債合計	68,538
建設仮勘定	1,424		
インフラ資産	245,430	【純資産の部】	
土地	126,243	固定資産等形成分	371,711
建物	4,801	余剰分（不足分）	△61,250
建物減価償却累計額	△3,085	他団体出資等分	0
工作物	221,228		
工作物減価償却累計額	△104,430		
その他	0		
その他減価償却累計額	0		
建設仮勘定	673		
物品	8,897		
物品減価償却累計額	△6,001		
無形固定資産	3,097		
ソフトウェア	0		
その他	3,097		
投資その他の資産	18,431		
投資及び出資金	3,197		
有価証券	58		
出資金	714		
その他	2,424		
投資損失引当金	0		
長期延滞債権	2,546		
長期貸付金	225		
基金	12,636		
減債基金	1,020		
その他	11,617		
その他	0		
徴収不能引当金	△173		
流動資産	16,743		
現金預金	9,784		
未収金	1,550		
短期貸付金	30		
基金	5,126		
財政調整基金	5,126		
減債基金	0		
棚卸資産	35		
その他	222		
徴収不能引当金	△5		
繰延資産	0		
資産合計	378,999	純資産合計	310,461
		負債及び純資産合計	378,999

※端数処理の関係上、合計額と一致しない部分があります。

全体行政コスト計算書

自 令和 3年 4月 1日
至 令和 4年 3月31日

(単位：百万円)

科目	金額
経常費用	91,204
業務費用	34,914
人件費	10,177
職員給与費	8,080
賞与等引当金繰入額	687
退職手当引当金繰入額	315
その他	1,094
物件費等	23,385
物件費	15,365
維持補修費	602
減価償却費	7,416
その他	2
その他の業務費用	1,352
支払利息	190
徴収不能引当金繰入額	183
その他	979
移転費用	56,290
補助金等	45,314
社会保障給付	10,877
その他	96
経常収益	7,373
使用料及び手数料	6,134
その他	1,239
純経常行政コスト	83,831
臨時損失	44
災害復旧事業費	0
資産除売却損	44
損失補償等引当金繰入額	0
その他	0
臨時利益	19
資産売却益	19
その他	0
純行政コスト	83,856

※端数処理の関係上、合計額と一致しない部分があります。

全体純資産変動計算書

自 令和 3年 4月 1日
至 令和 4年 3月31日

(単位：百万円)

科目	合計	固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)	他団体出資等分
前年度末純資産残高	309,915	372,020	△62,105	0
純行政コスト(△)	△83,856		△83,856	0
財源	82,911		82,911	0
税収等	47,016		47,016	0
国県等補助金	35,895		35,895	0
本年度差額	△946		△946	0
固定資産等の変動(内部変動)		△1,805	1,805	
有形固定資産等の増加		3,791	△3,791	
有形固定資産等の減少		△7,775	7,775	
貸付金・基金等の増加		2,387	△2,387	
貸付金・基金等の減少		△208	208	
資産評価差額	2	2		
無償所管換等	1,490	1,490		
他団体出資等分の増加	0			0
他団体出資等分の減少	0			0
その他	0	5	△5	
本年度純資産変動額	547	△309	855	0
本年度末純資産残高	310,461	371,711	△61,250	0

※端数処理の関係上、合計額と一致しない部分があります。

全体資金収支計算書

自 令和 3年 4月 1日

至 令和 4年 3月31日

(単位：百万円)

科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	83,227
業務費用支出	26,936
人件費支出	9,910
物件費等支出	15,966
支払利息支出	190
その他の支出	871
移転費用支出	56,290
補助金等支出	45,314
社会保障給付支出	10,877
その他の支出	96
業務収入	87,814
税金等収入	45,764
国県等補助金収入	34,697
使用料及び手数料収入	6,135
その他の収入	1,219
臨時支出	0
災害復旧事業費支出	0
その他の支出	0
臨時収入	0
業務活動収支	4,588
【投資活動収支】	
投資活動支出	6,340
公共施設等整備費支出	3,842
基金積立金支出	2,447
投資及び出資金支出	6
貸付金支出	0
その他の支出	45
投資活動収入	2,041
国県等補助金収入	1,207
基金取崩収入	603
貸付金元金回収収入	30
資産売却収入	154
その他の収入	47
投資活動収支	△4,298
【財務活動収支】	
財務活動支出	3,109
地方債等償還支出	3,109
その他の支出	0
財務活動収入	3,496
地方債等発行収入	3,443
その他の収入	53
財務活動収支	387
本年度資金収支額	676
前年度末資金残高	9,108
本年度末資金残高	9,784
前年度末歳計外現金残高	0
本年度歳計外現金増減額	0
本年度末歳計外現金残高	0
本年度末現金預金残高	9,784

※端数処理の関係上、合計額と一致しない部分があります。

5. 連結財務書類

連結貸借対照表

(令和 4年 3月31日現在)

(単位：百万円)

科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	376,470	固定負債	71,975
有形固定資産	351,148	地方債等	36,690
事業用資産	100,317	長期未払金	38
土地	54,172	退職手当引当金	7,788
立木竹	0	損失補償等引当金	0
建物	88,969	その他	27,460
建物減価償却累計額	△49,221	流動負債	5,267
工作物	27,529	1年内償還予定地方債等	3,905
工作物減価償却累計額	△22,557	未払金	457
船舶	17	未払費用	0
船舶減価償却累計額	△17	前受金	0
浮標等	0	前受収益	0
浮標等減価償却累計額	0	賞与等引当金	874
航空機	0	預り金	20
航空機減価償却累計額	0	その他	12
その他	0		
その他減価償却累計額	0	負債合計	77,243
建設仮勘定	1,424	【純資産の部】	
インフラ資産	247,073	固定資産等形成分	386,731
土地	126,329	余剰分（不足分）	△67,655
建物	4,887	他団体出資等分	0
建物減価償却累計額	△3,136		
工作物	225,316		
工作物減価償却累計額	△107,198		
その他	0		
その他減価償却累計額	0		
建設仮勘定	875		
物品	12,358		
物品減価償却累計額	△8,601		
無形固定資産	6,577		
ソフトウェア	1		
その他	6,577		
投資その他の資産	18,745		
投資及び出資金	780		
有価証券	58		
出資金	722		
その他	0		
投資損失引当金	0		
長期延滞債権	2,547		
長期貸付金	241		
基金	15,349		
減債基金	1,020		
その他	14,329		
その他	0		
徴収不能引当金	△173		
流動資産	19,849		
現金預金	11,959		
未収金	1,671		
短期貸付金	33		
基金	5,933		
財政調整基金	5,933		
減債基金	0		
棚卸資産	36		
その他	222		
徴収不能引当金	△5		
繰延資産	0		
資産合計	396,319	純資産合計	319,077
		負債及び純資産合計	396,319

※端数処理の関係上、合計額と一致しない部分があります。

連結行政コスト計算書

自 令和 3年 4月 1日

至 令和 4年 3月31日

(単位：百万円)

科目	金額
経常費用	115,111
業務費用	40,730
人件費	12,598
職員給与費	10,313
賞与等引当金繰入額	865
退職手当引当金繰入額	322
その他	1,098
物件費等	26,367
物件費	17,127
維持補修費	1,008
減価償却費	8,229
その他	3
その他の業務費用	1,765
支払利息	214
徴収不能引当金繰入額	183
その他	1,369
移転費用	74,381
補助金等	63,400
社会保障給付	10,877
その他	101
経常収益	10,606
使用料及び手数料	7,619
その他	2,987
純経常行政コスト	104,506
臨時損失	52
災害復旧事業費	0
資産除売却損	45
損失補償等引当金繰入額	0
その他	7
臨時利益	21
資産売却益	20
その他	2
純行政コスト	104,537

※端数処理の関係上、合計額と一致しない部分があります。

連結純資産変動計算書

自 令和 3年 4月 1日
至 令和 4年 3月31日

(単位：百万円)

科目	合計	固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)	他団体出資等分
前年度末純資産残高	317,041	387,426	△70,384	0
純行政コスト(△)	△104,537		△104,537	0
財源	105,082		105,082	0
税込等	60,340		60,340	0
国県等補助金	44,742		44,742	0
本年度差額	545		545	0
固定資産等の変動(内部変動)		△1,785	1,785	
有形固定資産等の増加		4,305	△4,305	
有形固定資産等の減少		△8,589	8,589	
貸付金・基金等の増加		2,995	△2,995	
貸付金・基金等の減少		△495	495	
資産評価差額	2	2		
無償所管換等	1,490	1,490		
他団体出資等分の増加	0			0
他団体出資等分の減少	0			0
その他	△2	△401	399	
本年度純資産変動額	2,035	△694	2,729	0
本年度末純資産残高	319,077	386,731	△67,655	0

※端数処理の関係上、合計額と一致しない部分があります。

連結資金収支計算書

自 令和 3年 4月 1日

至 令和 4年 3月31日

(単位：百万円)

科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	106,289
業務費用支出	31,908
人件費支出	12,302
物件費等支出	18,135
支払利息支出	214
その他の支出	1,256
移転費用支出	74,381
補助金等支出	63,400
社会保障給付支出	10,877
その他の支出	101
業務収入	111,606
税金等収入	59,073
国県等補助金収入	43,513
使用料及び手数料収入	7,612
その他の収入	1,408
臨時支出	7
災害復旧事業費支出	0
その他の支出	7
臨時収入	1
業務活動収支	5,311
【投資活動収支】	
投資活動支出	7,303
公共施設等整備費支出	4,307
基金積立金支出	2,948
投資及び出資金支出	0
貸付金支出	0
その他の支出	49
投資活動収入	2,321
国県等補助金収入	1,214
基金取崩収入	874
貸付金元金回収収入	31
資産売却収入	155
その他の収入	47
投資活動収支	△4,982
【財務活動収支】	
財務活動支出	3,607
地方債等償還支出	3,596
その他の支出	11
財務活動収入	3,718
地方債等発行収入	3,669
その他の収入	48
財務活動収支	111
本年度資金収支額	439
前年度末資金残高	11,503
本年度末資金残高	11,943
前年度末歳計外現金残高	16
本年度歳計外現金増減額	1
本年度末歳計外現金残高	17
本年度末現金預金残高	11,959

※端数処理の関係上、合計額と一致しない部分があります。

6. 財務書類における注記

1 重要な会計方針

(1) 有形固定資産及び無形固定資産の評価基準及び評価方法

①有形固定資産……………原則取得原価

ただし、昭和59年度以前に取得した河川、水路の敷地や、取得原価が不明な道路、河川及び水路の敷地等は原則備忘価額1円としています。

②無形固定資産……………原則取得原価

(2) 有価証券及び出資金の評価基準及び評価方法

①満期保有目的以外の有価証券

ア 市場価格のあるもの……………会計年度末における市場価格

イ 市場価格のないもの……………取得原価

②出資金

ア 市場価格のないもの……………出資金額

(3) 有形固定資産等の減価償却の方法

①有形固定資産……………定額法

なお、主な耐用年数は、以下のとおりです。

建物 15年～50年

工作物 10年～60年

物品 5年～15年

(4) 引当金の計上基準及び算定方法

①徴収不能引当金

未収金、長期延滞債権については、過去5年間の平均不納欠損率により徴収不能見込額を計上しています。

②退職手当引当金

退職手当債務から組合への加入時以降の負担金の累計額から既に職員に対し退職手当として支給された額の総額を控除した額に、組合における積立金額の運用益のうち佐倉市へ按分される額を加算した額を控除した額を計上しています。

③賞与等引当金

翌年度6月支給予定の期末手当及び勤勉手当並びにそれらに係る法定福利費相当額の見込額について、それぞれ本会計年度の期間に対応する部分を計上しています。

(5) その他財務書類作成のための基本となる重要な事項

①消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

②資金収支計算書における資金の範囲

現金及び現金同等物（容易に換金可能なもの。一般会計等においては、佐倉市財務規則で歳計現金等の保管方法として規定した預金等）

なお、現金及び現金同等物には、出納整理期間における取引により発生する資金の受払いを含んでいます。

2 追加情報

(1) 表示単位未満の取扱い

百万円未満を四捨五入しているため、合計金額が一致しない場合があります。

(2) 貸借対照表に係る事項

①平成 27 年度決算までは基準モデルにより作成していましたが、平成 28 年度決算より統一的な基準により作成しています。そのため固定資産、引当金等の算出方法が変更になっています。

②減価償却累計額（一般会計等）

・事業用資産	54,110 百万円
（建物	44,215 百万円
工作物	9,878 百万円
船舶	17 百万円
・インフラ資産	74,925 百万円
（建物	1,779 百万円
工作物	73,146 百万円
・物品	1,824 百万円

(3) その他事項

①特別会計や公営企業（上下水道）との内部取引においては、原則として取引額（収入額及び支出額）により相殺消去を行っています。

②連結対象団体（会計）間において、水道料金、下水道使用料のほか、年間取引総額が 100 万円未満の取引については、相殺消去の対象から除いています。

7. 財務書類からわかること

財務書類を用いて、4つの分析の視点から、さまざまな指標を導き出せます。

1 資産形成度

資産形成度とは、「将来世代に残る資産はどのくらいあるか」という観点に基づくものです。貸借対照表の資産の部において、佐倉市の保有する資産のストック情報を一覧表示していますので、これを用いて「住民1人当たり資産額」や「歳入額対資産比率」、「有形固定資産減価償却率（資産老朽化比率）」などの指標を示します。

① 住民1人当たり資産額

貸借対照表の資産合計額を、住民基本台帳人口で除することで得られます。住民の数は、令和4年1月1日現在の住民基本台帳人口としています。

数値が高いと公共施設等が多いこととなりますが、高ければ財政が豊かというものでなく、その分改修費や維持管理費がかかるため適正な規模であることが求められます。

参照書類	参照箇所	佐倉市（令和3年度）
貸借対照表	資産合計額	一般会計等：307,246百万円 全体：378,999百万円 連結：396,319百万円
決算カード	住民基本台帳人口	172,232人

<計算式> 資産合計額÷人口

	一般会計等	全体	連結
令和3年度決算	178.4万円	220.1万円	230.1万円
令和2年度決算	176.6万円	218.3万円	228.7万円
令和2年度 類似団体平均	155.8万円		

② 歳入額対資産比率

令和3年度の歳入総額に対する資産の比率を算出することにより、これまでに形成されたストックとしての資産が、歳入の何年分に相当するかを把握し、佐倉市の資産形成の度合いを測ることができます。

なお、施設更新が何年で可能かを判断する観点から、歳入には前年度末資産残高（前年度繰越金）は含めていません。

参照書類	参照箇所	佐倉市（令和3年度）
貸借対照表	資産合計額	一般会計等：307,246百万円 全体：378,999百万円 連結：396,319百万円
資金収支計算書	歳入額 （業務収入＋臨時収入＋ 投資活動収入＋財務活動 収入）	一般会計等：56,332百万円 全体：93,351百万円 連結：117,646百万円

<計算式> **資産合計額 ÷ 歳入額（前年度繰越金を除く）**

	一般会計等	全体	連結
令和3年度決算	5.5年	4.1年	3.4年
令和2年度決算	4.4年	3.6年	3.1年
令和2年度 類似団体平均	3.2年		

※注：類似団体平均は前年度繰越金を含めて積算したもの

③有形固定資産減価償却率（資産老朽化比率）

有形固定資産のうち、償却資産（事業用資産及びインフラ資産（物品は除く））の取得原価等に対する減価償却累計額の割合を算出することで、耐用年数に対して資産の取得からどの程度経過しているのかを把握することができます。

今後の施設更新時期や費用について検討するための指標といえます。

参照書類	参照箇所	佐倉市（令和3年度）
貸借対照表	有形固定資産 取得価額等	一般会計等：232,296 百万円 全体：318,536 百万円 連結：346,718 百万円
	有形固定資産 減価償却累計額	一般会計等：129,035 百万円 全体：161,625 百万円 連結：182,129 百万円

<計算式> (減価償却累計額÷取得価額等) × 100

	一般会計等	全体	連結
令和3年度決算	55.5%	50.7%	52.5%
令和2年度決算	54.2%	49.3%	51.1%
令和2年度 類似団体平均	59.9%		

2 世代間公平性

世代間公平性は、「将来世代と現世代との負担の分布は適切か」という観点に基づくものです。貸借対照表上の資産、負債及び純資産の対比によって「純資産比率」や「社会資本等形成の世代間負担比率（将来世代負担比率）」などの指標を示します。

ただし、将来世代の負担になる地方債の発行については、地方財政法等により受益と負担のバランスを考慮した制度設計がされており、地方債の償還金に対して地方交付税措置が講じられているものもあるため、世代間のバランスに考慮した公共施設整備を実施していく必要があります。

①純資産比率

純資産は、過去及び現世代の負担により形成された財産の額を示しています。資産合計額に対する純資産合計額の割合が高い場合、現世代が負担した税金等で形成された資産によって将来世代も利用可能な資源が蓄積されるので将来世代の負担が少ないといえます。

参照書類	参照箇所	佐倉市（令和3年度）
貸借対照表	資産合計額	一般会計等：307,246百万円 全体：378,999百万円 連結：396,319百万円
	純資産合計額	一般会計等：269,586百万円 全体：310,461百万円 連結：319,077百万円

<計算式> (純資産合計額 ÷ 資産合計額) × 100

	一般会計等	全体	連結
令和3年度決算	87.7%	81.9%	80.5%
令和2年度決算	88.0%	81.8%	79.9%
令和2年度 類似団体平均	78.9%		

②社会資本等形成の世代間負担比率（将来世代負担比率）

地方債は有形固定資産の財源とするためのものであることから、有形固定資産における地方債残高の割合から将来世代の負担が大きいかどうかを把握することができます。割合が高いと将来世代の負担が大きいことを表しています。

公共施設や道路は、将来世代も利用するものなので、地方債を利用することで“世代間の負担の公平性”を保つという側面もあります。

なお、地方債について、「地方公会計の推進に関する研究会」における検討結果を踏まえ、特例的な地方債（臨時財政対策債、減収補てん債等）を除くこととします。

参照書類	参照箇所	佐倉市（令和3年度）
貸借対照表	有形固定資産	一般会計等：281,904 百万円 全体：340,728 百万円 連結：351,148 百万円
	通常分地方債（1年内償還予定地方債も含む）	一般会計等：10,035 百万円 （31,615 百万円） 全体：14,379 百万円 （35,958 百万円） 連結：19,015 百万円 （40,595 百万円）

※地方債の表中の括弧書きは特例分も含めた合計額

<計算式> $(\text{地方債} + 1 \text{年内償還予定地方債}) \div \text{有形固定資産} \times 100$

	一般会計等	全体	連結
令和3年度決算	3.6% (11.2%)	4.2% (10.6%)	5.4% (11.6%)
令和2年度決算	3.6% (11.0%)	4.3% (10.4%)	5.6% (11.5%)
令和2年度 類似団体平均	10.9%		

※表中の括弧書きは特例分を含めた全ての地方債合計額で算定したもの

3 持続可能性（健全性）

持続可能性（健全性）とは、「財政に持続性があるか（どのくらい借金があるか）」という観点に基づくもので、財政運営に関する本質的な視点になります。貸借対照表において、地方債現在高の他に退職手当引当金や未払金など、全ての負債を捉えることにより、「住民一人当たり負債額」や「基礎的財政収支」などの指標を示します。

①住民一人当たり負債額

貸借対照表の負債合計額を住民基本台帳人口で除することで得られます。数値が高ければ負債が多く、低ければ負債が少ないことになるので、財政運営が良好といえます。

参照書類	参照箇所	佐倉市（令和3年度）
貸借対照表	負債合計額	一般会計等：37,660百万円 全体：68,538百万円 連結：77,243百万円
決算カード	住民基本台帳人口	172,232人

<計算式> 負債合計額÷人口

	一般会計等	全体	連結
令和3年度決算	21.9万円	39.8万円	44.8万円
令和2年度決算	21.2万円	39.8万円	46.1万円
令和2年度 類似団体平均	32.9万円		

②基礎的財政収支

地方債等の元利償還金支出及び基金積立金を除いた歳出と、地方債等発行収入及び基金繰入金を除いた歳入のバランスを示す指標で、「プライマリー・バランス」ともいわれます。

資金収支計算書上の業務活動収支（支払利息支出を除く）及び投資活動収支（基金を除く）の合計額を算出します。この指標がプラスでないと、借金の返済額が減少しないこととなります。

なお、本分析より投資活動収支から基金を除いて算定することとしています。

参照書類	参照箇所	佐倉市（令和3年度）
資金収支計算書	業務活動収支 （支払利息支出を除く）	一般会計等：2,539百万円 全体：4,778百万円 連結：5,525百万円
	投資活動収支 （基金積立金支出及び基金取崩収入を除く）	一般会計等：△633百万円 全体：△2,455百万円 連結：△2,908百万円

＜計算式＞ **業務活動収支（支払利息支出を除く）＋投資活動収支（基金を除く）**
 （※支払利息支出が除かれた分、業務活動収支は増額されます。）

	一般会計等	全体	連結
令和3年度決算	1,906百万円	2,323百万円	2,617百万円
令和2年度決算	719百万円	549百万円	1,456百万円
令和2年度 類似団体平均	1,086百万円		

4 効率性

効率性は、「行政サービスは効率的に提供されているか」という観点に基づくものです。財政の持続可能性と並んで重要な視点となります。

行政評価において個別に分析が行われていますが、行政コスト計算書を用いることで効率性の度合いを定量的に測定することができます。

①住民一人当たり行政コスト

行政活動の効率性を測定するため、行政コスト計算書で算出される純行政コストを、住民基本台帳人口で除することで得られます。

一般的に、人口が多ければスケールメリットがありますが、県の業務の一部を担う場合もあります。このことから、同規模の人口を有する自治体と比較する必要があります。

参照書類	参照箇所	佐倉市（令和3年度）
行政コスト計算書	純行政コスト	一般会計等： 52,754 百万円 全体： 83,856 百万円 連結： 104,537 百万円
決算カード	住民基本台帳人口	172,232 人

<計算式> 純行政コスト÷人口

	一般会計等	全体	連結
令和3年度決算	30.6 万円	48.7 万円	60.7 万円
令和2年度決算	38.1 万円	55.2 万円	67.3 万円
令和2年度 類似団体平均	42.5 万円		

5 その他

◎受益者負担比率（自律性指標）

行政コスト計算書の経常収益は、使用料・手数料など行政サービスに係る受益者負担の金額であり、施設等の減価償却費を含めた経常費用と比較することにより、行政サービスの提供に対する受益者負担の割合を算出することができます。

上下水道等の公営企業は、独立採算性の考え方が影響して、受益者負担の数値が高くなることがあります。

参照書類	参照箇所	佐倉市（令和3年度）
行政コスト計算書	経常収益	一般会計等： 1,107 百万円 全体： 7,373 百万円 連結： 10,606 百万円
	経常費用	一般会計等： 53,836 百万円 全体： 91,204 百万円 連結： 115,111 百万円

<計算式> $\text{経常収益} \div \text{経常費用} \times 100$

	一般会計等	全体	連結
令和3年度決算	2.1%	8.1%	9.2%
令和2年度決算	1.4%	6.9%	7.0%
令和2年度 類似団体平均	3.5%		